

JAGAM Japan Graduates' Association of Malaysia

TAYORI たよりマレーシア元留日学生協会
马来西亚留日同学会PERSATUAN BEKAS MAHASISWA² JEPUN, MALAYSIA

No. 88, Jalan SS 2/4, 47300 Petaling Jaya Selangor D.E.

Tel : 03-7877 4312

Fax : 7877 4311

Email : jagamkl@gmail.com

URL : www.jagam.org.my

2009年ミャンマでのASCOJA総会見聞随筆



2003年9月26日マレーシアが主催国の時、ボランティアスタッフとして初めてASCOJA総会に参加しました。あの時、マレーシア元日本留学生協会がどのような活動をしていますかを知りたくて参加しました。6年後の今、他の国の元日本留学生協会の状況を理解したい上、今回のテーマ「日本とASEANの関係強化?より良い教育を通して?」(Bridging Japan and ASEAN Countries Through Better Education) にも興味を持ちましたので、再びアスコジャに参加しました。

何故数年連続してアスコジャに参加したのでしょうか、その魅力は为什么呢かと、ミャンマへ行く前に、不思議で数人の先輩たちに聞きました。その心は、“各国での旧友に会いたいから”や、“定年後暇でせつかくだから仲間達と一緒に海外へぶらぶらしたい”、“

総会はとてもつまらないですが、チャンスですので海外へあちこちちょっと見てみたい”など、様々な理由がありました。

総会の巻

ところが、総会はそれほどつまらなくなかったです。とはいえ、精神を集中して代表者たちの発表を聞かなければならぬ羽目になりました。それは代表全員が英語で発表し、国によってはそれぞれのなまりがありますのでかなり聞き取りにくかったです。しかし、これも総会の面白いところではないでしょうか。

「元日本留学生総会」なのに、何故妙に日本語で発表しないのでしょうか。日本語なら、英語が主流でない国にとってもっと流暢に伝えるのではないのでしょうか、と、その時ふっと考えました。

「日本とASEANの関係強化?より良い教育を通して?」というテーマはどの国にとっても、発表しやすい題材です。発表した論文の中で、タイのように教育についての題材を専門的に論じるものや、或いはマレーシア代表のように“Globalization and Education ? The Case of ASEAN and Japan”という他の専門分野の視点から日本の高等教育がアセアン諸国との関わりを探りなどがありました、とても勉強になりました。

その中で、自国の元日本留学生協会の年間活動を報告するかたちで発表する国もいました。“ASEAN各国の元日本留学者会同士の交流”とした目的と大会のテーマからかなり外れましたので、とても残念でした。



交流の巻

マレーシアの出席者たちは各国中でも年齢層が一番若いと思います。ホテルのロビーで主催国から招待してくれました市内観光のバスを待つほんの短い間でも、どこでも必ず何か面白いことを考え、みんなを楽しませてくれました。

ミャンマは仏教の国ですので、裸足で廟に入るのが常識ですので、この国ではスリッパが必須不可欠な履きものです。

みんながせっかく四方八方から集まってきましたので、JNBやJCB、JSBに問わず、ミャンマにいれば1マレーシアです。さて、これは誰の美足か当たってみませんか。

女性の間で話題を起すのはそれほど難しいではないです。“とても素敵な服、普段もこのふうに着るのですか。”と聞けば、簡単に話のたねになります。このミャンマのお嬢様たちは小中学校の先生です。日本語は少し話せますが、やはり国際用語の英語を通じやすいようです。彼女たちはアスコジャのスタッフとして駐ミャンマ日本大使館主催の晩餐会に招待され、バイキング式で食べ物を取りながらお互いに話し始めました。初対面ですからなんとなくぎごちないですが、晩餐会が終わり、会場を後にしよう瞬間、おとなしかった彼女たちから、突然一緒に記念写真を撮りませんかと誘われて本当にびっくりしました。もちろんOKでした。写真を見れば分かりますように、私たちのひょうきんな雰囲気にもまれ、彼女たちの表情も柔らかくなりとても楽しそうでした。



大金持ちの巻



恵まれた家庭で生まれなくて、しかも大きくなってお金持ちの家へ嫁げなくて、それでもお金持ちの経験を味わいたくてどうしようもなかったら、ミャンマへ行きなさい。ミャンマなら、あなたが金持ちになる夢を現実にすることができます。ほら、彼女たちを見て下さい。大金を手に入れば、もう行儀なんか忘れてしまいました。

ミャンマでは、両替屋がありませんと旅立つ前から分かっていて、飛行機を降りましたから出迎えの運転手さんにそのまま中華街での旅行代理店へ直行とお願いしました。その代理店の華僑社長さんにミャンマ通貨を両替してもらいました。そこで、社長さんがいきなり分厚いミャンマ紙幣を机の上にポツンと置きました。こんなに大金で、金額を確認しようとしても、びっくりして手を出せなかったです。社長さんが私たちのおっちょこちょい様子を見飽きれて、店内の自動紙幣数え機を使い、あっという間に金額の確認してくれました。“あ、大金だ。。！”とそのとき生まれて初めて実感しました。



旅の巻



総会が終了した後、主催国から市内観光を招待してくれました。ヤンゴン市中心の『聖なる黄金の塔（Shwedagon Pagoda）』は欠かせない観光名所の一つです。仏教の聖地のミャンマに来ましたら、みんなも心を清めたいな感じをします。

ここまで書きましたら、ある人物を紹介しなければなりません。それは大変なお世話になりましたミャンマの Su Su Hliang さんです。彼女も大会のボランティアスタッフとして参加していました。長い黒髪で、背が高くほっそりとした彼女はとても綺麗で、優しい方です。

フライト・スケジュールのため、一部のマレーシア団員は大会の後、一日観光の時間を儲けました。私たち自分でアウンサンマーケットへショッピングしますと聞きました Su Su Hliang さんは、自らガイドさんになりますと言いました。言葉の通じないミャンマではもちろん彼女の提案に大歓迎でありがたく思います。朝から夕方までへとへとになってこのショッピング狂の私たちに付き合ってくれました。しかも、タクシーをひろって、私たちがちゃんと無事にホテル着くまで確認するほどの彼女の熱情にとっても感動しました。

Su Su Hliang さん、ありがとうございました。

食堂の巻



アウンサンマーケットで買い物をする時、Su Su Hliang さんが通訳と値引きまでしてくれましたお蔭様で、私たちの買い物が大成功でした。

昼頃、Su Su Hliang さんがアウンサンマーケット中の食堂へお昼を連れてくれました。食堂に入った途端、各屋台の人から蠅がはちみつを見つけましたように私たちを囲んでしまい、大声しかも早口で私たちがチンプンカンプンのミャンマ語で何かをしゃべっていました。多分各自の売っているメニューを紹介していると思います。いきなり大群の人に囲まれて、うるさくて、どう反応すればよいか分からない私たち、ただ呆然として立っているだけなのです。優しい Su Su Hliang さんも一人ですので、誰に返事すればいいか分からないようです。適当に席に着いて、Su Su Hliang さんがある屋台へ食べ物注文した後、蠅のように囲んでいた各屋台の人がやっと静かになって

くれました。それぞれ自分の屋台に戻り、なにもないよう優雅にうちわを扇ぎ、また隣の人と井戸端会議を始めました。まわりの変化があまりにも極端的に速いので、私たちがまた驚きの中から回復しないまま、依然ぼっとしていました。静返った周りがとても不思議で奇妙な体験でした。

各会員国が二年ごとの順で主催する ASCOJA 総会は、2011年の開催国がタイと決められました。二年後はタイでの再会を楽しみにしています。またタイという国の新しい体験と一緒にしていただきたいと思います。

周素蓮より